

九州・長崎 I R の導入意義と目標

世界最高水準のIR導入による、地方創生に留まらない、国施策への貢献

外的要因	世界	日本	九州・長崎
	観光は成長産業 IRによる成功事例 各地で新たなIR開発	観光立国実現に向けた取組の推進 (観光ビジョン等の策定)	九州一体となった 観光戦略の推進 観光先進国への飛躍 (IR導入の推進)

内的要因	九州・長崎の5つの政策課題				
	人口減少の抑制	雇用の創出と 住民所得向上	新たな人の流れの 創出	地域経済の 活性化	財政基盤の強化
	九州・長崎の5つのポテンシャル				
	アジアとの近接性	メッセージ性の高い観光資源	IR候補地の開発環境		
	良好な観光市場		IR導入に向けた合意形成		

『観光先進国』としての日本 日本型IR導入による 国際競争力の高い滞在型観光の実現 <IR区域整備> 2030年までに、訪日外国人旅行者数 6,000万人、同消費額1.5兆円の達成 <明日の日本を支える観光ビジョン>	『地方創生』 (しごと) 良質な雇用創出・所得向上 (ひと) 若者定着・UIターン促進 (まち) 「しごと」と「ひと」の好循環を 支える都市機能強化	更なる『国施策への貢献』 九州に多数所在の 国境離島地域の保全・振興 <有人国境離島法> 古くから九州が誇る 歴史・芸術・伝統等の文化保全・活用 <文化経済戦略> 日本とアジアを繋ぐ 九州ゲートウェイ機能の強化 <九州圏広域地方計画>
--	---	--

設置運営事業予定者の概要・運営方針及び区域のコンセプト

運営方針	有害な影響の排除 及び 徹底したコンプライアンス確保に重点を置いた運営
■ 設置運営事業予定者「CASINOS AUSTRIA INTERNATIONAL (以下、CAI)」の概要 - CAIは、オーストリア共和国の国有企業で、1977年に創業した歴史あるカジノオペレーター - CAIグループには、IRの開発・運営に知見を持つ多くの国内外の企業が参画する予定です。 - 贈収賄防止、コンプライアンスマネジメントシステムにおける世界標準規格をクリアした、オーストリア政府の 厳格な審査もとで成立しているクリーンな企業です。	
ISO	贈収賄防止マネジメントシステム 世界標準規格 ISO 37001
	コンプライアンスマネジメントシステム 世界標準規格 ISO 19600

区域コンセプト **Accept, Devise, Creation**  
様々な文化を受け入れ、融合し、新しい価値を生み出す街。

【九州・長崎IRの魅力】

- 東洋文化と西洋文化の融合、伝統的なものと革新的なものの融合。時代を超え、距離を超え、広く受け入れ、取り込んで、新しく生み出す。これこそがこの九州・長崎IRの魅力・価値である「真の和洋折衷」です。

【目指す姿】

- 九州・長崎の独自性ある強み、オーストリア・ウィーンの特長を融合し、唯一無二の誘引力あるエリアを創り上げることで、九州・長崎を日本の象徴にまで押し上げて、世界中から多くの観光客を誘客～日本全国へ送客を果たし、「観光産業革命」を実現します。

九州・長崎 I R 区域の規模・施設・機能など



エリア面積 約32ha  
施設総延床面積 約55万㎡

項目	数値等
事業規模	約3,500億円
年間延来訪者数	約840万人/年
経済波及効果 (運営)	約3,200億円/年 (九州)
施設内雇用者数	約1万人
雇用誘発効果 (運営)	約3万人 (九州)
県納付金・入場料納入金	約300億円/年

① MICE施設  
アジア屈指の  
リゾートMICE拠点の創出  
(総合コンベンション企業等)

- ハイクラスに対応可能なラグジュアリーかつ隔離性のあるミーティング施設
- 最大規模のインセンティブツアーに対応可能な日本を代表する規模 (最大会議室の収容人数6千人以上・施設全体の収容人数1万2千人以上) のコンベンションホール
- 人々の交流を促し、多目的利用が可能な一定規模以上 (展示床面積の合計2万㎡以上) の展示場施設
- CAI及びオーストリアとの連携体制によるMICE誘致推進
- 協力企業が強みを持つサブカルチャーやe-sportsなどのイベント誘致や創設

② 魅力増進施設  
九州・日本の魅力創出と  
発信拠点  
(エンタメ関連企業)

- 日本・九州の伝統・文化・芸能のコンテンツをショービジネスとして展開し、日本各地・九州の津々浦々への観光の起爆剤となる施設
- 日本・九州各地の伝統芸能のエンターテインメント化
- クールジャパンの発信 (アニメ、eスポ、コスプレ等)
- 祭りアイランド九州 (ライブ&最先端技術での発信)
- 九州・日本の食文化発信 (飲食、物販等)
- 庭園や桜並木道等の整備やアート展の運営 等



③ 送客施設  
九州・日本の観光の  
顧客体験価値の創造  
(IT、旅行関連企業)

- ショーケース機能 (Life-change Travelへのモチベーションを喚起する、圧倒的で深い、五感と心に響く観光プレ体験の提供)
- コンシェルジュ機能 (「おもてなし」を体現するプロフェッショナル・コンシェルジュ、双方向リアルコミュニケーション型のAIコンシェルジュの導入)
- 待合機能 (待合のストレスフリー、効率性・利便性の高いFast travelのためのMaaSの導入)
- 送客商品例 (屋久島縄文杉と白谷雲水峡トレッキング、九十九島・サンセットクルーズ、嬉野ティーツリズム等)



④ 宿泊施設  
リゾート空間の演出  
(国際的ホテルブランド等)

- ハイグレードを含めた幅広い客層・ニーズに対応できる客室や質の高いサービスの提供
- 世界的ラグジュアリーホテルチェーンが運営するビジネス・レジャー等の幅広く対応するホテル
- 旧ホテルヨーロッパを改装したヨーロッパ風高級ホテル
- ヨーロッパ風の街並みに展開するMICE訪問客、長期滞在客等向けのホテル
- 「湯治」の文化を表現した医療機関連携型高級温泉旅館
- MICE需要を含め、増加する宿泊需要に対応可能な規模 (客室床面積の合計がおおむね10万平方メートル以上)
- 世界中の観光ディステーションとなる象徴的な建築物 (非日常的・印象的)

⑤ 来訪及び滞在寄与施設  
幅広いラインナップとコンテンツ  
拡張による来訪・滞在促進  
(エンタメ関連企業等)

- コンサートホール (ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団をはじめとする国内外著名オーケストラ等によるコンサートが開催される施設)
- メディカルモール (放射線治療をはじめとする6つの診療科目で構成される先進先端医療施設)
- その他、ミュージアム、デジタルアート、レストラン・ショッピングモール等の多様な来訪者のニーズに応えるための施設・コンテンツの整備



# 九州・長崎 I R 区域整備計画素案（概要）

## I R 区域整備に向けた取組

### 交通アクセスの強化・連携

#### <IR整備に伴う交通インフラ整備の基本的な方針>

- 広域交通（空港、新幹線、道路）ネットワーク形成の促進
- 公共交通機関の輸送機能拡大・連携強化
- IR候補地周辺の地元交通渋滞対策
- 地域の特性を活かしたIR特有の交通機関導入

#### <具体的な方策>

- 長崎空港の機能強化・九州内の空港連携
- 鉄道の機能強化と九州新幹線の早期整備
- 九州内の高速バス・トランジット機能の活用促進
- 長崎空港・IR施設間の海上交通の整備
- ラストワンマイル交通の整備（新交通活用）
- IR施設周辺道路網や駐車場等の整備
- エンターテインメント性を備えた移動の提供



出所：国土地理院地図に情報追記

### MICE誘致支援体制の整備や広域周遊の促進

- MICE誘致や広域周遊の促進を図るための支援組織を新規立ち上げ

- コンベンション推進団体との情報共有・連携体制の強化による、オール九州のMICE誘致拡大・周遊促進
  - 情報連携や海外向け共同プロモーション
  - 九州の観光資源を活用したアフターコンベンション開催
  - 観光コンテンツ・プログラム・地域ブランドの開発支援
  - 観光型MaaS等との連動による周遊の促進

#### <MICE誘致支援等における関係主体の役割分担の想定>

主体	主な役割
MICE支援組織	・ MICE開催に係る一体的な支援（観光コンテンツ整備支援、プロモーション、関係機関調整等）
IR事業者	・ MICE・宿泊・送客施設などを統合的に運営し、MICE誘致・開催の事業計画を策定し、実現
自治体	・ ユニークな企画・開発推進 ・ 観光等の各種振興施策との連携

### 国際観光人材の育成・確保

#### 教育機関やIR事業者等と産学連携コンソーシアムの構築



#### <観光人材育成の全体イメージ>



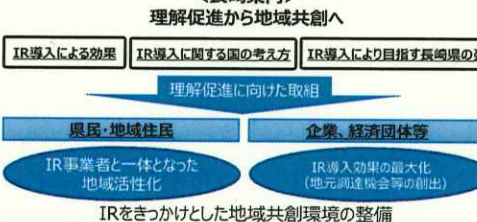
### 九州・長崎県内での合意形成

#### <九州内>

- 民間・議会・行政が一丸となった九州・長崎IRの推進
  - 九州地域戦略会議の下に設置した各県及び経済団体による九州IR推進PTでの広域連携の在り方の議論も踏まえ、R3.4月に、広域周遊やビジネスネットワークの具体を検討する九州IR推進協議会が発足。
- オール九州による国への要請活動
- 事業展開に向けた九州経済界の意識醸成（セミナーやフォーラムの開催等）



#### <長崎県内>

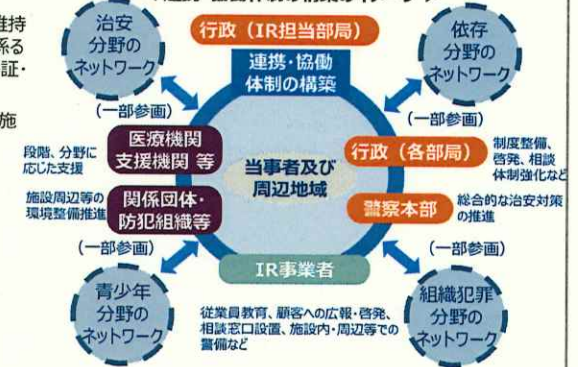


## 懸念事項対策（防災・感染症対策等の危機管理含む）

### <分野間の連携・協働体制の構築>

- キャンブル等依存症対策、治安維持等対策（治安維持対策・組織犯罪対策・青少年の健全育成対策）に係る幅広い主体が連携した協働体制を構築し、対策の検証・改善を継続的に実施するための連携体制を構築
- PDCAサイクルによる継続的な対策の検証・改善を実施

### <連携・協働体制の構築のイメージ>



### ■ 連携体制構築により目指す姿

- IR施設利用者にとって、安心して、かつ、責任をもち施設を利用できる環境の確保
- IR施設周辺の住民にとって、安全・安心・快適な地域環境を享受できる基盤の整備
- IR事業者にとって、施設利用者や地域と良好な関係を構築し、ともに共生できる社会の構築

### <IR事業者による具体的な取組・対処方針>

- キャンブル等依存症対策や治安等対策
  - キャンブル等依存症に係る24時間365日利用可能な相談窓口の整備、自助グループ等の活動支援・連携
  - カジノを利用しない訪問客からのカジノ施設の視覚的・動線分離
  - 企業・教育機関への健全育成啓発活動の実施
  - 反社会的勢力等のデータベース照会による入退場管理
  - 周辺地域への防犯カメラ設置運用検討、防犯訓練等
- 危機管理（防災、防犯等）
  - 防犯・防災・警備の一元的管理による危機管理体制強化
  - 巡回ロボットの導入や警備用ドローン・歩行領域EV等の最先端機器の配備
  - 感染症対策に係る国際的な認証の取得
  - 大規模災害発生時、MICE施設や宿泊施設を近隣住民の避難所としての活用



### 県による納付金・入場料の使途（想定）

- 観光の振興に関する施策（例：MICE誘致・開催の推進、国際航空路線の誘致を含めた交通アクセス整備 等）
- 地域経済の振興に関する施策（例：脱炭素化の推進、新たな地域基幹産業の創出推進、地場産品ブランド化 等）
- 法の目的及び地方公共団体の責務を達成するための施策（例：依存症の予防等に向けた取組の強化 等）
- 社会福祉の増進及び文化芸術の振興に関する施策（例：医療・福祉提供体制整備、諸外国等との異文化交流推進 等）
- 離島振興など、九州・長崎の課題解決に対応する施策（例：新交通・物流をはじめとした新技術の利活用推進、離島周遊型旅行商品の開発推進、広域周遊や依存症対策に係る九州内連携体制整備 等）

### IR事業者によるカジノ収益等も活用した地域貢献等

- 自治体と連携した社宅・寮等の周辺住環境整備（空き家の利活用や通勤バスの24時間運行等含む）
- 地元調達・地元企業との協業による地域産業・経済活性化（地元調達率100%の目標）
- 海外一流楽団（ウィーン少年合唱団等）の誘致・音楽会の開催支援によるアートや音楽の文化醸成
- 開業後10年以内の「カーボン・ゼロ」の実現（目標）など、SDGsの推進
- ハウステンボスとの景観調和への配慮を含めた近隣事業者・関係者等との協働・連携 など



### 想定スケジュール

	2018	2019	2020 ~ 2025
国		<ul style="list-style-type: none"> <li>● IR整備法 成立</li> <li>● カジノ管理委員会設置 ● 委員会規則等の制定</li> <li>● 基本方針策定 ● 基本方針公表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>区域整備計画認定審査</li> <li>カジノ免許付与審査</li> </ul>
長崎県		<ul style="list-style-type: none"> <li>実施方針策定</li> <li>事業者選定</li> <li>地元の合意形成手続き</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>協議議決</li> <li>IR開業</li> <li>実施協定締結</li> <li>開業準備工事</li> </ul>
IR事業者		<ul style="list-style-type: none"> <li>事業基本計画作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>区域整備計画の作成</li> <li>免許申請準備</li> </ul>